

標準仕様書大幅改訂に対応 九州三協が鉄筋継手研究会



研究会を発足。例会には、ゼネコン、設計事務所、鉄筋継手業者の40人が参加。

開会挨拶で同会事務局の河村氏は「仕様書の改訂により、ガス圧接継手と溶接継手、機械式継手の品質管理体制の統一化が重要となるが、まだ未整備の部分もあり複雑化が予想される。研究会では、仕様書改訂のフォローアップも含め、鉄筋継手技術の知識を正しく認識してもらおうよう発信していきたい」と挨拶。

講演は、「鉄筋継手工認定

の最新情報」を(株)日本鉄筋継手協会の矢部喜堂専務理事、「工業化工法への取組と鉄筋継手の実例」を戸田建設(株)九州支店の重本彰作業所長、「建築工事原価低減の基本①」をハタコンサルタントの降旗達生代表が説明した。

今後は、会員増強を図るとともに、正しい鉄筋継手の情報提供を促進し、建築物の信頼性向上に寄与したいとしている。尚、次回例会は来年の6月と12月に予定している。

鉄筋継手の専門工事業者である(株)九州三協(河村貴夫社長、大野城市仲畑4-2-38)は「鉄筋継手研究会」を立ち上げ、1日に第1回例会を福岡市博多区の福岡商工会議所において開催した。

理の範囲を、ガス圧接工事の1工事より溶接継手工事・機械式継手工事を含めた3工事へと広げた。これに伴い、多種多様化する鉄筋継手の最新情報を建築構造物の設計・施工・監理に携わる人達と共有し、品質・施工管理等の正しい理解を深め、更には最新技術を活用したトータルコストダウンを図るための

今秋、日本の鉄筋継手を

管理する(株)日本鉄筋継手協会は、鉄筋継手工事標準仕様書的大幅改訂を実施。管